

指導者 瀬上小教諭 円谷 良正

1. 研究主題「個を認める研究」

一学習意欲を高めるために一

学習を進めるための前提として大切なのは、児童の学習意欲である。

しかるに、意欲をもたせ、積極的に学習に取り組ませるための具体的な方法については、いつも実践の場で問題にされながらも、いまだに適切な方法は見い出されていない。

本研究では、児童の個性と学力に応じて、意図的・計画的に、まんべんなく「個を認める」はたらきかけがなされていけば、その「認められた」ことが契機となって、どの児童も意欲的・積極的に学習に取り組むようになるのではないかと考え、一斉指導における「個を認める」はたらきかけのあり方を追求する。

2. 研究主題の解決策

(1) 前提条件

- ① 一人一人の児童の性格と学力とを把握し、個を生かすために、下記の資料を活用する。
- Y-G性格検査 • 学力検査
 - 知能検査 • 前学期の成績
 - 事前テスト

- ② 授業の中で、児童の主體的な活動の時間をできるだけ多くとり、教師はその間個別指導に努める。

(2) 解決策

- ① 授業ごとに、あらかじめ3～4人の児童を決めておき、その子たちを授業の中で「認める」場を意図的・計画的に設定し、短時日のうちには、少なくとも1回は、どの児童も「認

める」ようにする。このことを継続して行う。

3. 研究主題と本時とのかかわり

児童名	前学期評定	学力SS	知能SS	Y-G性格類型	所見
A	4	58	67	B	<ul style="list-style-type: none"> • 自我が強く、非熟慮的、慎重性に乏しい。 • 独自の意見を出すのが、根気がない。
B	3	53	48	A''	<ul style="list-style-type: none"> • 人といっしょにはしゃぐことが好き、決断力にやや欠ける。 • 発言は少ないが、努力する。
C	2	41	48	AE	<ul style="list-style-type: none"> • 気が弱く、リーダーの資質に乏しい。慎重である。 • 理解するまでに時間がかかる。

1. 単元名 反比例

2. 単元の目標

- (1) 反比例する2つの量の変化と対応について理解させ、その関係を表から読み取る能力を伸ばす。
- (2) 反比例する2つの量の関係を式に表わしたり、式やグラフから読み取ったりする能力を伸ばす。

3. 指導計画……………(総時数9時間)

- (1) 反比例の意味をつかむ……………(3時間)
- 一方がn倍になれば、他方が $\frac{1}{n}$ ……(1)(本時)
 - 対応する数値間では、積が一定……………(1)
 - yがxに反比例するとき、xもyに反比例する……………(1)
- (2) 反比例の式とグラフ……………(3時間)
- (3) ま と め……………(3時間)

4. 本時の目標